

# 芳賀高跡地の利用計画は

## 町 120区画を造成し、道路、上下水道、公園を整備

小林 信二 議員



**問** 芳賀高跡地の利用は、今までの説明では、宅地を造成、販売し、人口増を図るとしていますが、その計画に変更がないか伺います。

120区画の  
住宅地を整備

**答** 町長 人口減少の克服と地方創生の実現をするこ  
とや、工業団地就業者の住宅需  
要への対応などを目的に住宅地  
を整備します。事業概要は、芳  
賀高跡地と隣接民有地合わせて  
約5ヘクタールの区域を造成し、  
道路、上下水道、公園などを整  
備します。区画分譲数は、1区  
画250平方メートル、約76坪程度  
の宅地を120区画、約2、700  
平方メートルの商業用地を分譲  
する計画で、総事業費は概算で  
約10億円と見込んでいます。

平成28年後半の着工を目指し  
ます。整備工事の完成は、平成  
32年ごろになる見込みです。分  
譲時期は、平成30年から一部分  
譲を開始できると考えています。

**問** 整備工事の完成が平成32  
年ごろの予定だが、もつ  
と早く完成できないか。また、  
補助事業の計画は。

**答** 建設産業部長兼都市計画課長  
工事期間の短縮は、予算  
や職員数にあわせて道路、公園、  
上下水道、造成工事を実施する  
ため、4年程度の工事期間は必  
要と考えています。導入する補  
助事業は、社会資本整備総合交  
付金を想定しています。

**問** 造成工事後、地盤安定に  
弱く1年かかるが、地盤が  
弱いせいなのか。また、パイロも抜  
いたことも原因か。水道管の石  
綿管の処理は、どのようにする  
か。

**答** 建設産業部長兼都市計画課長  
地盤は事業前に土質調査  
を行った結果、建物を支持する  
のに必要な地耐力については、  
何ら問題はありません。芳賀高  
建設時に埋め込んだ杭等につい  
ては、しっかりと埋め戻しをして  
いますので、地耐力に影響を及  
ぼすことはありません。

**問** これからの自治体は、地  
域間競争に勝たねばなり  
ません。そのためには、人口増  
問題とします。これに対し、  
市街化調整区域を見直す考え  
は。

**答** 町長 市街化調整区域の  
見直しは、芳賀町は宇都  
宮都市計画区域に入っています  
ので、その中で見直すことにな  
ります。人口増を国、県に理解  
していただき、市街化区域を拡  
大し、魅力ある町をつくるため  
に人口増は必要ですので、努力  
していきたい。

**問** 分譲価格の設定は、どの  
ように。

**答** 町長 分譲価格は、不動  
産鑑定を行い、価格設定  
をした。坪単価としては、薬  
師の郷や周辺の赤坂地区の地下  
公示価格などを参考にすると、  
約8万円程度ではないかと考え  
ています。



▲ 芳賀高跡地



北條 勲 議員

ふるさと納税で米農家支援を

町 農家への収入増を図る一つの方策

問

ふるさと納税は、応援や発展に貢献したい自治体に寄付する制度として平成20年度に始まりました。来年度から納税手続を簡素化するため税務署への確定申告を不要とし、寄付した自治体への申請だけで済む特例制度の創設、減税対象となる寄付の上限が二倍に引き上げられる税制改正計画とあります。長崎県平戸市の寄付金額12億8千万円は市税の47%です。人口5千人弱の北海道土幌町の9億1千万円は町税の140%です。米だけで頑張っているのは岡山県吉備中央町、長野県阿南町、福島県湯川村です。寄付金の使い道は米生産農家の支援のためです。栃木県の米概算金は8千円です。米価が安いと、農家の経営も厳しくなり、農業従事者が減れば耕作放棄地が増えてしまう心配があります。そこで、先進自治体を参考にすれば農業活性化の一助になると思うが町長の見解を伺います。

先進事例を参考に  
前向きに取り組みます

答

町長 本町のふるさと納税1万円以上の寄付者に5千円相当の返礼品です。特産品は特別栽培米5kg、梨3kg、いちご4パック、芳賀の麦焼酎1本等をセットにしています。6年間で46万5千円でした。今年度は、全国版の月刊誌に、本町の返礼特産品の量が多いことが魅力が紹介され、95万円の寄付がありました。税制上のメリットだけでなく、返礼品の魅力やお得感がマスクミに取り上げられ、税収増加策だけでなく、自治体の特産品PRにも利用するシステムに変化しています。ただし、総務省では、この制度の趣旨に反するような高割合の返礼は自粛するよう要請しています。米どころの本町は、米価低迷により土地利用型農業が大きく影響を受けている現状があります。このようなことから、ふるさと納税制度を活用して、農家への収入増を図るのも一つの方策と考えております。

まずは、先進事例を参考にし、関係者と協議しながら前向きに取り組みます。当面は、JA・道の駅・商工会等と連携しながら、町のアピールポイントを高める工夫やPRの工夫、マーケティング業務の外部委託等も考慮して、さらに、便利なクレジツトカードでの納付ができるよう検討します。

問

ふるさと納税制度の趣旨と違うが、地域間競争になっていきます。少しでも税収を上げるためには早い者勝ちです。米農家でも特に、沢地の田圃は作り手が少なく耕作放棄地が多くなるので最優先して対応する考えはないか。

答

町長 やはり消費者が望む米だと思っています。町では特別栽培米だけPR。沢地の米のPRも検討したいと思っています。



(写真は返礼品の例)

# LRTによる「まちづくり」は!

## 町 LRTを中心とした交通網の整備と住環境の整備

石川 保 議員



**問** LRTをどう活用していくのか、投資額に見合う計画なのか伺います。

**答** 町長 町都市計画マスタープランに基づき、祖母井の市街地整備や都市基盤の整備、周辺の住宅地整備や商業集積地など創設することで居住拠点を形成します。また本町には長期総合計画である第6次振興計画を27年度中に策定します。女性が働ける場所の創出、工業団地の拡張や新たな雇用創出につなげます。トラジットセンターの整備や住環境の整備、他の交通手段との結節設備の整備により、LRT等の基幹交通との接続性を高め、公共交通の利便性を高めます。

**問** LRTの整備により、少子高齢化対策と若者定住対策、そして人口増対策をどう考えるか。

**答** 町長 LRTを魅力の一つとして、芳賀町転入者の新築や、アパートなどの補助金交付など多岐にわたる方策を考えています。

**問** LRTを整備することによる、まちづくり構想のプロジェクトチームを作る考えは。

**答** 町長 まち・ひと・しごと創生総合戦略の地方版総合戦略を同時に策定します。策定委員会を立ち上げ、その中で検討と専門チームの設置も検討します。

**問** 祖母井までLRTを整備したら、総事業費はどのくらいかかるのか。

**答** 町長 ただ、夢を言うのではなく、行政は積み上げが必要であり、建設事業費、運営費等、全てを把握していない中で言うべきではないと思います。

ます。当面は本田技研北門までとなつていきます。延伸の可能性が見通せる場合には、事業費等も含め、計画概要を説明し合意形成を図つてまいります。

### 芳賀バイパス歩道と河川の護岸を健康ロードに

**問** 町民の健康増進に「赤羽ロード」や芳志戸に予定している芳賀遊水地空間を活用し、さらに河川の護岸をつなぎ、健康ロードとして整備してはいかがでしょうか。

**答** 町長 赤羽ロードは単独でアピールし利用促進を図っていきたく考えています。芳志戸の五行川遊水地は緑地機能を付加し、計画案として、外周を桜堤回廊とし、左岸は、四季折々の花咲くフラワーロードとして、右岸はサッカー場、ターゲットボードゴルフ場など整備を考えています。真岡土木事務所と協議を進めているところです。

**問** 遊水地と道の駅、ロマンの湯と回遊性をもたせ観光にも生かせる整備をしては。

**答** 町長 芳賀遊水地から右岸堤防上にサイクリングロード、東側に並行している町道飯島・上横西線も歩道付き道路として整備することから遊水地外周部の桜堤を整備すると約4キロメートルの回遊コースが形成されます。桜や草木の開花時期に合わせたイベント等を年に数回開催できればと考えています。その際、祖母井の商店街のイベントや神社などの祭り、ロマンの湯や友遊はがと連携した、回遊性のある取り組みを図ります。



▲ LRT (イメージ)



▲ 五行川桜つつみ (真岡市)



増淵 さつき 議員

新たな生活困窮者支援制度の運用はどのように

町 相談支援員がワンストップで相談に対応

**問** 平成25年12月に生活保護法の改正とあわせ「生活困窮者自立支援法」が成立し、本年4月から施行されます。この制度は、これまで制度の狭間に置かれてきた生活保護受給者以外の生活困窮者に対する支援を強化するものです。対象者の実態把握や予定されている支援事業、県東健康福祉センターとの連携方法について伺います。

役場内に  
相談支援員を配置

**答** 町長 生活困窮者の自立相談支援事業は県の事業として実施されます。県東健康福祉センターの芳賀福祉事務所が実施主体となり、町と連携し事業が実施されます。芳賀町と益子町を担当する相談支援員が1名配置され、ワンストップで相談に応じることが主な内容です。町では、役場事務所内に事務スペースを確保し、相談員に情報提供し支援方法の協議などを行います。

対象者の把握方法については広報とともに心配事相談来訪者へ

の案内、要保護者への周知等相談支援員と協議し、効果的な方法で事業を進めていきます。

**問** 不就労のひきこもり等対象者の掘り起こしが重要となりますが、連携先をどのように考えていますか。

**答** 健康福祉課長 民生委員会の方や社会福祉協議会、ケアマネージャーの方、教育委員会などと連携し、周知と対象者の掘り起こしに重点を当てていきたいと考えています。

**問** 4月からの窓口対応、相談スペースについてはどのように考えていますか。

**答** 健康福祉課長 健康福祉課福祉係に事務スペースを設け、相談場所についてはケースバイケースの対応で、家庭訪問のウエイトも大きくなるかと考えています。

**問** 支援制度の一事業に位置付けられている学習支援について、町の取り組みをお聞きします。

**答** 教育長 学習支援事業も県の事業として実施され県東健康福祉センターの芳賀福祉事務所が実施主体となります。町では、小学4年生から6年生までと中学生を対象に、それぞれ週1回2時間、5月連休明け頃から実施する予定です。事業の周知に際して、対象家庭への案内や応募の受付は町教育委員会が行います。県との連携を密にして、支援に努めてまいります。

**問** 学習支援者の体制づくりはどのようにしていきますか。

**答** 子ども育成課長 県の事業では、業者に委託して実施すると聞いています。

**問** 学習支援者について、業者委託以外にボランティアの活用やネットワークづくりの考えはありますか。

**答** 子ども育成課長 学習支援者を募るなどして、ネットワーク構築にむけて検討していきたいと思えます。



▲ 県東健康福祉センター

# まち・ひと・しごと地方創生法及び地域再生法の活用について

## 町 しっかりとした戦略を策定し、国からの助成を得たい



水沼 孝夫 議員

**問** 国は、まち・ひと・しごと創生法と改正地域再生法の2法を成立させ、【地方人口ビジョン】及び【地方版総合戦略】の政策目標と策定を推進するとしている。課題の解決を図るため、自立性、将来性、地域性、直接性、結果重視という5原則を掲げ、全庁挙げた総合支援メニューと予算措置がなされた。しかし、市町村の戦略が命であり、積極的に手を挙げなければ予算もつかない。総合戦略を早急に策定し、補助金を有効活用すべきと考える。人材支援制度も整備されるので、活用も含めて国の動向をどう捉え、予算編成や事業に活かしていくのか考えを伺う。

**答** **町長** 地方版総合戦略の策定は、国の26年度補正で1,000万円が交付される。次年度に繰り越し、しっかりとした戦略を策定し、国からの助成を得たいと考える。また、人材支援制度の導入に向けても本町の総合戦略の施策や実施に関して、積極的に支援を受けたと考えている。

**問** 一方で国は、規制緩和を促して地域活性化を目指す地方創生特区について、やる気のある自治体を3月をめどに指定するとしている。芳賀町も総合戦略として【LRTを活用した次世代創生特区構想】を策定して国に申請を考えてみてはどうか。祖母井地区の市街地拡張や区画整理、公共施設の統合による拠点整備等々をリンクさせて、特区として財源確保や農地法等の規制緩和を求めて行ければストップ人口減少が可能と考えるが町長の考えを伺う。

**答** **町長** 非常に興味のある事業だ。特区にして芳賀町を魅力ある町に変えてゆく。人材活用も併せて国と綿密に相談しながら特区申請に結び付け行ければと考える。

### 人口減少問題と人口ビジョンについて

**問** 国の方針によると地域間競争と差別化の流れが一層大きくなり、市町村の危機感や地域経営の能力が問われている。町長のリーダーシップと職員員の企画・発想力や実行力が不

可欠である。また、企業や地域住民を巻き込んだ地域全体の改革が必要となる。人口ビジョンについて芳賀町は何人を目指すのか町長の具体的な考えを伺う。

**答** **町長** 人口減少に対する具体的な構想として現時点で出来る最善で最大の対策を講じることを基本に取組む。人口ビジョンについては更なる企業誘致や居住条件の拡大により、持続的発展の出来る町と条件として、2万人程度を維持できる町づくりを目指したい。

**問** 昨年10月、宇都宮市にLRT事業に参画要望をした。現在、共同で検討委員会を立ち上げ、28年度着工を目指して基本設計に取り掛かっている。町長は芳賀町にLRTと言う線路を初めて引く一大事業を端緒に付けた。通勤や子供達の通学の費用は半以下になり、短時間で多くの便数があるLRTの利便性はバスの比では無い。LRTの芳賀町にもたらす経済効果は目を見張るものがある。そこに恵まれた福祉や教育の環境があれば人は自ずと集

まってくる。芳賀町にはそう言った隠れたポテンシャルがある。今が千載一隅のチャンスだと思いが町長の考えを伺う。

**答** **町長** 躊躇しては手遅れになってしまふ。LRTの活用や住居地域の拡充そして工業団地再整備、魅力あふれる芳賀町にしていくため、農工商バランスのとれた持続的発展を期さなければならぬ。地方創生はこれから始まる。人口減少と地域経済の縮小の悪循環を断ち切り、まち・ひと・しごと創生の好循環を作り芳賀町の再生をしていきたい。

▲ ライトレール (富山市)

